

2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年5月4日

所属・職名	政策情報学部教授	氏名	小林 航
研究課題	准双曲割引型効用関数のもとでの最適物品税率		
研究キーワード	たばこ税、最適課税論、行動経済学	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>2019年度は標記の研究課題を進めるにあたり、先行研究を精査し、モデルの理解を深める作業を主に行った。それに加えて、特別研究官を務める財務総合政策研究所の研究プロジェクトに参加し、公的年金制度の分析を行ったことから、在職老齢年金制度に着目し、そこに最適課税論の考え方を応用した分析を加えた。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文】「日本の公的年金制度における財政方式の変遷」財務省財務総合政策研究所と中国国務院発展研究センターとの共同研究報告書（共著、2020年3月、財務省 Web サイト掲載）</p> <p>【発表】「日本の公的年金制度と2019年財政検証」財務省財務総合政策研究所と中国国務院発展研究センターとの共同研究中間報告会（共著、2019年11月、中国広州市にて）</p> <p>3. 主な経費</p> <p>2019年度の研究費も大部分を書籍購入に充てた。財政学・経済学関連の文献を多数購入し、既存研究の把握や分析手法の理解を深めるのに役立てることができた。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>【その他の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都税制調査会で通常の委員に加え、「自動車関連税制のあり方に関する分科会」の会長を務め、複雑な議論を整理する際に最適物品税の考え方を役立てることができた。 			
（本文は1ページ以内にまとめること）			